



くみはまだより

回覧

令和6年6月10日 発行：久美浜市民局（69-0716）

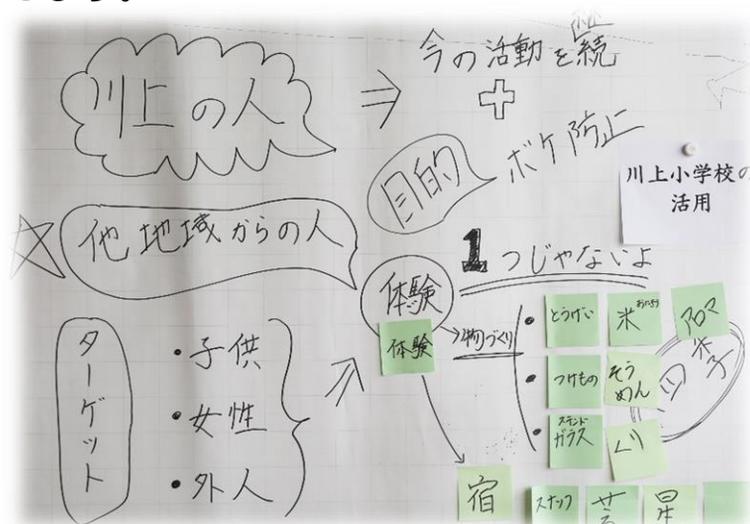
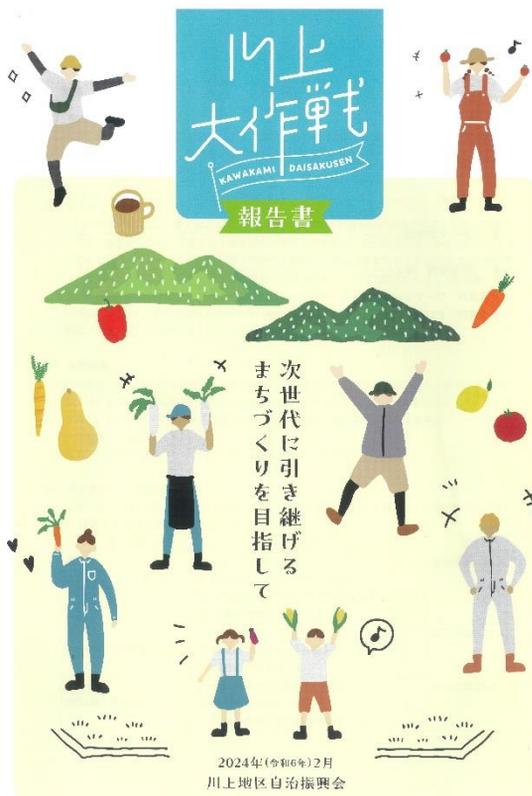
～次世代に引き継げるまちづくりを目指して～ 川上地区自治振興会、ワークショップを開催

川上地区自治振興会では、昨年9月に第2次川上地区むらづくり計画を策定しました。

その後、この計画をさらに進めていくため、久美浜林業センターで3回にわたりワークショップ形式で意見交換を行いました。

ワークショップには、各回数十人が参加し、興味のあるテーマについて議論しました。さらに、それを実践的な作戦として、下表のとおり5つのテーマ、9つの事業にまとめ、報告書を全戸配布されました。

今後、川上地区自治振興会がまとめ役となって、これらの事業の実現に向けて動き出します。



▲ワークショップでのまとめの例

報告書は、久美浜町活性化連絡協議会のホームページでご覧いただけます。ぜひご覧ください。



テーマ	想定事業
未来につながる農業	アロマ事業（休耕田のハーブ栽培、間伐木の利用） 無農薬川上米づくりによるブランド展開
若い世代が住みたいまち	コミュニティデジタル化事業 空き家活用（宿泊・移住）事業
魅せるまち	王家の谷プロジェクト
高齢者が活躍するまち	高齢者のライド事業
みんなが集まる旧川上小学校	多世代交流サロン（カフェ、飲食、教室、ラウンジ） アロマ蒸留工房 観光・移住ビジットセンター

新しい特急車両が運行開始 京都丹後鉄道



京都丹後鉄道では、特急「タンゴ・エクスプローラー」車両の後継として、名古屋～富山間の特急「ひだ」や名古屋～紀伊勝浦間の特急「南紀」等で活躍していた、JR東海のキハ85系を令和5年3月に譲り受けKTR8500形として整備。令和6年3月16日（土曜日）のダイヤ改正から運行を始めました。

KTR8500形は、ワイドビューかつ床を高くしたハイデッカー車両で、タンゴ・エクスプローラー車両と同じく、京都丹後鉄道沿線の海や山の風光明媚な景色をお楽しみいただけます。

久美浜町内では、土・日曜に快速列車として下記の時刻で運行されますので、ぜひご利用ください（車両運用の都合により変更となる場合があります）。

始発 (網野)	夕日ヶ浦 木津温泉	小天橋	久美浜	終着 (豊岡)	備考
10:05	10:11	10:18	10:25	10:38	網野まで特急 「たごりレー1号」
始発 (豊岡)	久美浜	小天橋	夕日ヶ浦 木津温泉	終着 (網野)	備考
10:54	11:06	11:13	11:19	11:25	網野から特急 「たごりレー2号」

市民局で、バスの回数券が購入できます ～丹海バスの通学回数券が、ますます便利に～

久美浜市民局では、丹海バス（200円券）及び市営バス（200円券及び100円券）の回数券を販売しています。

4月1日から、丹海バスの通学回数券が、通学以外、さらに学校や自宅の最寄りバス停以外でも利用できるようになりました。

日常のお出かけなどにも、ぜひご利用ください。

ひまわりの絆プロジェクト 交通事故ゼロを目指して



5月30日（木）、京丹後警察署久美浜交番で、久美浜保育所3～5歳児及び久美浜小学校1年生の子どもたち53人が、ひまわりの植ええを行いました。

これは、京都府警察などが行っている「ひまわりの絆プロジェクト」によるものです。9個のプランターにひまわりの種を植えるとともに、子どもたち一人ひとりに家や学校などでも育てられるよう、ひまわりの種が贈られました。

このプロジェクトは、平成23年11月に府内で起きた交通事故で亡くなった4歳の男の子が育てていたひまわりの種を、ご両親が京都府警に託されたことから始まりました。府内の警察署や幼稚園、保育所、小中学校等をはじめ、全国各地にひまわりの種を配り、ひまわりを育てることを通じて、命の大切さと交通事故防止を伝える取組みとして行われています。

当日は、京丹後交通安全協会や京丹後防犯協会、防犯推進委員会、久美っ子見守り隊の協力のもと、保育所・小学校から警察署までの道中、信号機や横断歩道、踏切の横断方法など、実践型の交通・防犯教室も行われました。

京丹後市内では、昨年1年間に68件の人身事故が発生しています。

歩行者や自転車が横断歩道を横断しようとしているときは、一時停止して歩行者や自転車に道を譲る、日没より1時間早めにライトを点灯する等、一人ひとりの心遣いで、交通事故ゼロを目指しましょう。



▲協力してプランターに種を植える子どもたち



▲手を挙げて横断歩道を渡ります

二俣川でヤマメを放流 佐濃自治会



5月30日（木）、佐濃自治会が、久美浜町奥山の二俣川最上流で、地元名で“こもん”正式名ヤマメの放流を昨年度に続き行いました。

佐濃自治会「こもんの会」は、地域の自然環境へ関心を持ち“ふる里”への愛着を深めることを目的に令和2年に発足。この日はこうりゅう虹こども園の年長組25人も参加し、群馬県から購入したヤマメ400匹を放流しました。

ヤマメはサクラマスの子魚です。川を遡上し産卵したサクラマスの幼魚が海に下らず、そのまま川にとどまり一生を過ごすのがヤマメです。体に小判状の9つの紋があるのが特徴で、体長は30cm位に成長します。

ヤマメは、古来から二俣川に生息していました。奥山、二俣あたりでは昭和40年ごろまでは川で魚釣りをしているとヤマメが釣れたそうです。地元の方の話では、昭和50年ごろまでは二俣川に生息していたとのこと。しかし、農薬や河川工事による大量のセメントの使用、大きな井堰ができて海から産卵場所まで遡上できなくなったこと、また、水量の減少や水温の上昇などにより絶滅したと考えられています。

佐濃自治会「こもんの会」では、放流後も定期的に観察し、生育状況を調査していくこととしています。

